

自分たちが主力となり、初めて挑んだ新人戦で県大会優勝し、「東海・全国」が狙える」と意気込んでいた矢先の「中止」の連絡。3年間目標としていたものが突然なくなり、言葉にできないほど辛かったです。

夏休み明けの集会で、自分の頑張りを話す機会をもらいました。そこで、今まで振り返る時間ができ、「バスケットボールが生活の一部になり、欠かせないものだったこと」や「感じていた辛さや忙しさが、実は幸せな時間だったこと」

NONMA



入賞して最初の中伝選手輩たちのおかげで、全国大会をベンチメンバーとして、間近で体感させてもらいました。「すごい経験ができた」という気持ちと同時に、「何もしていない」「連れて行つてもらつただけ」という気持ちが…。この経験から「自分たちの力で全国大会へ」という目標が生まれました。

自分も含め身長が高いチームではあります。だからこそ、スピードで負けないよう走り込みをたくさんしました。「どんな状況でも最後まで走りきることができる」これがどこにも負けない強みだと自負していました。

野々俣 唯斗さん

MA

に気付くことができました。それと同時に、今の状況が「誰のせいでもない」「バスケットがもうできないわけじゃない」という思いになり、前を向くことができました。

今は、仲間と交わした「高校のバスケットボールの舞台で再会する」という約束に向け、志望校へ入学できるよう勉強しています。同じチームとして、あるいは対戦相手として、この仲間とバスケットボールができる日が楽しみです。

インタビュー 副キャプテン

副キヤブテン

野々俣 唯斗さん



▶ 真正中学校 男子バスケットボール部

最後まであきらめない

—憧れ、勝利の放物線—

真正中学校男子バスケットボール部は、2018年全国中学校バスケットボール大会ベスト16の経験をもつ強豪です。先輩に憧れをもって入部した選手は多数。2020年度3年生は、全国大会で活躍する先輩の姿を目に焼き付けた最後の学年です。そんな彼らが挑んだ最後の1年に込めた思いとは一。

インタビュー キヤープテ

全国大会決勝トーナメント進出をかけた、絶対に負けられない試合。当時のキヤープテンが、ゲーム終了間際でシュートを決め、チームを勝利に導きました。その光景が強烈で「全国ベスト16を超えたい。僕がチームをけん引する」と決意し、キヤープテンに手を挙げました。

チームの平均身長は170cm。バスケットボール選手としては小柄な面々です。しかし、得意なプレースタイルは体格差を感じさせない「堅守速攻」です。8分間のゲームを2度、走りきるためには、練習時間の半分を走り込みに充て、持久力を高めてきました。

最終学年という良い緊張感で順調に仕上がっていた矢先、目標としていた中体連が中止に。何のために3年間取り組んできたのか、分からなくなりました。

そんなとき、顧問の先生や家族からかけてもらつた言葉は、僕がゲーム中に仲間を鼓舞するときによく口にするものでした。



全国大会決勝トーナメント進出をかけた、絶対に負けられない試合。当時のキヤ普テンが、ゲーム終了間際でシュートを決め、チームを勝利に導きました。その光景が強烈で「全国ベスト16を超えたい。僕がチームをけん引する」と決意し、キャプテンに手を挙げました。

チームの平均身長は170cm。
バスケットボール選手としては小

KANTSU 若松朋哉さん